

議案外質問(要旨)

市政の情報発信について

問 久元副市長は就任1ヶ月インタビューで、市政の情報発信に意欲を見せられた。デザイン都市神戸というスタンスで、広報全般で統一感を持ちブランド発信に努めてほしい。特に市のホームページを、知りたい情報に素早く到達でき、見た目もクールなデザインが求められると発言されたが、神戸市が魅力ある情報発信をするためにも、具体的にどのような取り組みむのか。

答 (久元副市長) ホームページにはいくつか課題がある。一つは知りたい情報がわかりやすく書かれているか、迅速にたどり着けるか。先日、広報課の担当者と、iPadで見ながら意見交換をした。もう一つは、ホームページは自治体、企業の顔で、特にデザイン都市宣言を行った本市は、デザイン面でも優れたものでないといけない。また海外の方が見て、神戸に行ってみたくなる内容、デザインにす

ることも課題でないか。

問 ホームページだけではなく、広報紙、暮らしのサポートブック、テレビ、ラジオ、定例会見なども大切なツールであり、全てデザインという観点で見直せば、情報発信改革になる。副市長に市民が期待しているのは外部からの率直な意見。ホームページ以外のメディアの印象はどうか。

答 (久元副市長) 長く東京で、他の自治体の情報発信を見てきた。神戸は、地方自治制度改革の取り組みなど積極的に発信し、存在感はある。また、海外に向けての情報発信には市内在住の海外の方の目ももっと取り入れるべきだ。また神戸市の公式観光ホームページがスマホ対応になっていないので、すぐに対応が必要だ。世の中の進化に合わせて、不断に見直していく必要がある。

かねてから我が会派は「民間からの副市長の登用」を求めてきました。新しい視点による神戸の情報発信を期待します!

児童虐待防止について

問 家族のあり方が時代とともに変化し、母親の閉鎖的で孤独な子育て環境が虐待に繋がる危険性がある。保護者が社会に居場所を持ち精神的に充足していること、子育ての合間に一息つく余裕を持つことを応援する施策が必要だ。

例えば子育て中の保護者と子供を対象とした子育てふれあい教室や子育てひろば、子育てサークルの支援などに、子どもを持たない方、子育ての終わった方等にも参加をしてもらうてはどうか。またこれらのイベントの中に、保護者のリフレッシュを目的とした一時保育つきイベントなど、子育ての負担感に対して手助けする取り組みがあってもよいのではないか。

答 (中村副市長) 区役所では子育てリーダーを育成しており、その方が実施する子育てグループが現在市内に280を超える。今後は学生など子育て未経験者も含め、支援に関わる新たな担い手の発掘、育成や相互の交流を図るため、さらに一層の支援に努めたい。

保護者のリフレッシュや育児ストレス解消の取り組みとして、急

な用事の際に地域の会員が相互に応援する「ファミリースポーター事業」などがある。リフレッシュ目的の利用をさらに呼びかけたい。また児童館では、登録している親子が交代で子供をみる「キッズクラブ事業」があり、あすてっぴKOBÉでは、一時保育つきのセミナーがある。今年度から開設した子育て応援サイト「ママフレ」なども活用し、きめ細かくニーズに沿った情報提供を充実していきたい。

要望 例にあがったサービスの利用者から、子供を預けて仕事ができなかったというだけではなく、地域で助けてくれる人と繋がってよかったという感想を聞く。誰でも子育てふれあい教室などに顔を出せるよう垣根を低くしてほしい。また、イベントの集客のために託児を付加するのではなく、リフレッシュを主目的としたメニューもほしい。東京都港区ではひとき子供と離れてほっとしてくださという呼びかけでフラワーアレンジメント教室を開催している例がある。